

産科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られる記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 胎児ヘモグロビンの妊娠に伴う変動についての研究

[研究機関] 北海道大学病院産科・周産母子センター

[研究責任者] 水上 尚典（産科・周産母子センター 教授）

[研究の目的]

胎児ヘモグロビンという種類のヘモグロビンは、妊娠していないときでも、血液中に全ヘモグロビンの0.5-1.0%程度認められます。子宮の中の赤ちゃんの血液中では妊娠後期にかけて全ヘモグロビンの60-80%を占めるようになるので、胎内および出生後の赤ちゃんに原因不明の貧血を認めた場合、お母さんの血液中における胎児ヘモグロビン値が増加していれば、胎盤から赤ちゃんの血液の一部がお母さんの血液中に流れ込んだこと（胎児母体間輸血といいます）を示す証拠と考えられています。しかし、正常妊娠に伴う変動や個人での変動の幅など、実際に胎児ヘモグロビン値がどの程度増加したか、あるいはしなかったかを評価するための基礎データは乏しい状況です。本研究は、妊娠各時期の胎児ヘモグロビン値の変動を調べることにより、胎児母体間輸血の評価基準をつくることを目的としました。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

平成23年1月1日から平成24年7月31日の間に北海道大学病院産科・周産母子センターで分娩し、妊娠中に糖化ヘモグロビン・胎児ヘモグロビン検査を受けた妊娠女性

●利用するカルテ情報

対象について、以下の項目の調査を行います。

- ①年齢 ②非妊娠時 body mass index (BMI) ③経産回数 ④分娩時の妊娠週数
- ⑤胎児数 ⑥出生体重 ⑦糖化ヘモグロビン（最近の血糖値変化を反映する糖の付いたヘモグロビン）・胎児ヘモグロビン検査値（妊娠前、妊娠中、産後）

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北14条西5丁目

北海道大学病院 産科・周産母子センター

担当医師 水上 尚典

電話 011-706-6051 FAX 011-706-7981